

令和6年度 第1回内子町地域公共交通会議 議事概要

日時：令和6年8月20日（火）10:00～12:00

場所：内子町役場本庁 4階 第3会議室

議事次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議題 (1) 内子町地域公共交通計画について (2) 小田地区デマンドバス（参川線、田渡線、立石線）について (3) その他
4. 閉会



配付資料

- (1) 内子町地域公共交通計画について
- (2) 内子町小田地区運行計画（案）（束ねて輸送）
内子町小田地区運行計画検討（個別に輸送）

委員一覧

	氏名	所属（役職）	出欠	備考
1	太田 利栄	長田自治会長	—	副会長
2	池田 匠子	内子町民生児童委員協議会 会長	○	
3	大塚 生男	内子町老人クラブ連合会 会長	—	
4	西岡 健二	内子地区住民	—	
5	上岡 豊秋	五十崎地区住民	—	
6	林 弘恵	小田地区住民	○	
7	松本 真一	一般社団法人愛媛県バス協会 専務理事	○	
8	竹中 由紀夫	伊予鉄バス株式会社 代表取締役 専務取締役	○	
9	松下 貴義	愛媛県私鉄労働組合連合会 伊予鉄労働組合副執行委員長	○	
10	増田 輝彦	国土交通省四国運輸局愛媛運輸支局 首席運輸企画専門官	○	
11	山本 美恵子	国土交通省四国運輸局愛媛運輸支局 首席運輸企画専門官	○	
12	藤本 和巳	国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所 副所長	○	
13	相原 俊史	愛媛県南予地方局八幡浜支局大洲土木事務所道路課長	○	
14	神野 晋平	大洲警察署交通課長	○	
15	喜多 秀行	神戸大学名誉教授	○	
16	倉内 慎也	愛媛大学大学院 准教授	○	
17	小野植 正久	内子町長	○	会長
18	黒澤 賢治	内子町総務課長	○	
19	亀内 重範	内子町建設デザイン課長	○	
20	窪 仁志	四国旅客鉄道株式会社 愛媛企画部長	○	
21	植西 丈晴	有限会社 内子タクシー 代表	○	
22	池田 央	池田タクシー株式会社 代表	○	

発言者	内容
1. 開会	
2. 会長挨拶	
小野植会長	<ul style="list-style-type: none"> ・内子町では小田方面への町営路線バスや19路線のデマンドバスを運行しており、地域の公共交通を担っているが、運転手不足により維持が困難となっている現状がある。また、町民の免許返納も進んでいる。こうした中、内子町では公共交通の体系のあり方を定める5ヶ年計画を策定することとし、そのための法定会議として様々な団体から集まって頂いたところである。 ・これまでは自家用車による旅客輸送は認められていなかったが、テレビ等で紹介されているように、一般人が自家用車で旅客を輸送することが可能となっている。これはタクシー事業者が運行を管理し、日本型ライドシェアと呼ばれている。また、過疎地等で自治体が管理するものを自治体型ライドシェアという。 ・特に小田地域の公共交通の維持が厳しい状況となっており、今後の手当てを考えていく必要がある。忌憚のないご意見を頂きたく、最後までよろしくお願いします。
3. 議題(1) 内子町地域公共交通計画について	
<p>≫事務局より、「内子町地域公共交通計画について」を説明</p>	
小野植会長	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドバスについては利用者が減っており、厳しい現状となっている。予約を受けて1日3便の運行をしているが、本当に町民の役に立っているか、もっといい方法があるのではないかとということも今回検討する。何か意見はあるか。
倉内委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針・基本目標について、方向性が見えてこない。地域公共交通計画では、どの地区のどういった人を、どのように運んでいくかを決めていくことが大事である。何を重視し、地区ごとにどうするかを、この会議の中で合意を得ることが目的なので、方向性がもう少し見えるようにする必要がある。 ・町内の輸送資源について、アンケート調査で拾えるだろうか。例えば自動車学校・スポーツクラブ・診療所の送迎車等を輸送資源として活用する可能性について、事業者等に対する別の調査が必要ではないか。 ・町民アンケート調査については、1世帯1枚を送るよりも、各世帯で複数人に答えてもらってはどうか。送迎する人・される人が世帯にいるので、それぞれの意見を聞いた方が良い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は現状把握等の説明が中心となっており、基本方針・基本目標については大枠のところをお示ししたが、今後のアンケート結果や地域別の課題の分析等を踏まえて、移動に困っている人にどのような施策が可能かを検討していきたい。 ・輸送資源については、事業者へのヒアリングを今年度行う予定である。どの事業者へ行うかはまだ決まっていないが、送迎サービスをしている病院等を想定している。 ・アンケートについては各世帯に複数枚を送る方向で検討したい。
喜多委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは、単に複数枚を送るのではなく、世帯票と個人票を分け、世帯の中での各人の役割を把握できるような設計が必要である。 ・公共交通に関する問題を解決するためにこの計画を立てるので、どうやれば解決するかを提案してこの場でチェックすることが大事である。

発言者	内容
喜多委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ P. 32 の基本方針は課題の焼き直しであり、どうやって解決するのか書かれていないため、議論の材料になっていない。本来は、その解決策が実現可能かどうか、もっといい方法が無いのかを検討するのがこの会議の役割である。 ・ 調査については、問題解決に向けた解決策の方針について合意を得た段階で、本当にそれで正しいかどうかを確認するために行うもので、具体的な施策と関連させた上で必要な調査を行うべきである。 ・ 町が実現したい施策・サービスについて、限られた財源の中で出来ることや、問題をうまく解決できる方法を見極めるのがこの会議の役割である。ニーズと供給体制のギャップを埋めていく道筋を示すのが本計画である。
小野植会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの基本目標をそれぞれ進めていく中では運行本数とコストの問題等、相反することも出てくると思うが、どのように考えているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は目指すべき目標を示させて頂いているが、具体的にどうやって実現させていくのが重要なので、アンケート結果や、現在取り組んでいる小田地域の助け合い輸送の取組等を踏まえて、実現可能な施策について次回提案させて頂きたい。
小野植会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の策定スケジュールはどうなっているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 策定のフローに示している通り、今後はアンケート調査を経て問題点・課題の整理を行った上で、改めて基本方針・目標を設定した段階で、次回会議を想定している。その後、施策の検討と庁内ヒアリングを経て、素案をまとめた12月頃の段階で第3回の会議を想定している。また、パブリックコメントを経て来年2月に第4回のスケジュールとなっている。
小野植会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回掲げられた基本方針・基本目標が漠然としているが、全体では4回の会議で進めていきたいということである。
喜多委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題2の内容や過去のアンケートを見ると、公共交通事業者の人材面が逼迫しており、その対策として「住民による輸送」に軸足を移していく必要があると考える。地域特性や、タクシー事業者が得意な地域というものもあると思うが、うまく行くように町がサポートして進めていくというのが、1つの提案である。 ・ もう1つ、「住民による輸送」を小田地域で先行して実施し、内子・五十崎地域へ展開していくということを提案する。 ・ せっかく皆さんお集まりなので、この場で決められる所は決めた方がよい。
小野植会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の提案について、民間の町民による参加により交通体系を変えていくという方向性で皆さんよろしいか。また、小田地域で試験的に進めた上で内子・五十崎に広げていくという方向性でよろしいか。(一同賛同)
植西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小田地域のデマンドバスを担当しているが、利用者はおおむね固定客であり、時間帯に厳密な縛りのない利用が多いため、車両1台で3路線程度カバー可能である。 ・ 住民輸送については、運転手を本当に確保できるかどうか危惧される点であり、少なくともタクシー会社の車両も1台確保しながらの方が住民も利用しやすいのではないかと。厳密な時間指定が必要な場合は、前日までの予約が必要等のルールを決めておけば対応できる。

発言者	内容
植西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・伊予市双海でもデマンドタクシーに参画しているが、毎月の予算を確保して頂き、しっかりとした報酬を出すことで2名のドライバーを確保できた。夜の運行が可能となり、飲食店の利用が増えるという効果も現れている。 ・住民輸送の場合は毎日運行するとは限らないため、1回1000円や1日8000円という報酬の体系では職業に出来ない。需要があるならばそれで良いが、現実に運転手を確保できるかを調査してほしい。 ・住民輸送のみに頼る前に、1台で良いので町とタクシー事業者の連携や、運転手の確保に向けた取組を考えてほしい。過疎地からタクシー会社をなくすべきでないと考ええる。
小野植会長	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーは無いと困るものであり、タクシー事業者をなくすべきでないのは当然である。一方で、さまざまな話を聞いていると、小田地域では対応が難しくなっているのも事実であり、現在の住民輸送の検討を進めているところである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー事業者との協議は以前より行っているところであり、池田タクシーや内子タクシーの先代の井上氏からは、運転手の確保が難しいと聞いていた。また、小田地域では利用者が少なく、内子から送迎に行くのも効率が悪いとのことで、現在の検討となっている。植西委員の意見についても、改めて協議させて頂きたい。
植西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のデマンドタクシーの報酬体系は運行1回あたりで決められており、運行が無ければゼロなので苦しい、ということをお池田氏や井上氏は言われていたと思う。年間で考えて、車両を維持していくためのコストを考えることを提案したい。
小野植会長	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通を維持する上で、地域の協力も得ながら、ということになっていくと思う。議題2へ進んでよいか。
3. 議題(2) 小田地区デマンドバス(参川線、田渡線、立石線)について	
≫事務局より、「内子町小田地区運行計画(案)(束ねて輸送)」を説明	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのタクシー事業者との協議では、小田地域については住民ドライバーへの移行を進める方向で合意したところである。 ・今回、了承を得られれば運行に向けて準備を進めていきたいと考えている。
小野植会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「束ねて輸送」は、高齢者が多く、ある程度の利用が見込める地域では運転手を決めて町が提携する車両で対応するということである。現在のデマンドバスより利便性が高くなる方向である。
喜多委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「束ねて輸送」も「個別に輸送」も、基本は住民ドライバーに軸足を移すということだと思う。 ・タクシーは地域に重要であり、残すべきであるが、小田地域では奥元タクシーが1台で対応しているため、実態としてタクシーを呼んでも来れない等の場合もある。 ・国交省の通達により、タクシーと住民の共同輸送が可能となっている。タクシー1台を借り上げると過剰調達となるが、タクシーを呼んでも来れない時のためには住民の助けが必要となる。

発言者	内容
喜多委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ライドシェアのように、通勤・通学で運転する人をマッチングすることが出来れば効率的である。人を乗せてもよいという人が、いつ、どこに向かって運転しているのかを把握し、うまく機能していく仕組みを作っていくことが大事だと思う。 ・タクシーを今後も残しながら、町の財政も含めて折り合える仕組みを検討できるような調査をすることがポイントである。
※事務局より、「内子町小田地区運行計画（個別に輸送）」を説明	
小野植会長	<ul style="list-style-type: none"> ・立石地区は75歳以上の高齢者が比較的少ない地区であり、デマンドバスも運行しているが、より利便性が高まるように、住民の移動を活用するということである。今後こういった提案をしていくということによいか。（一同賛同）
4. 閉会	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・次回については、またご案内させて頂き、引き続き審議をお願いしたい。 ・本日はお集まり頂きありがとうございました。